

シャジクモ春季栽培で

原形質流動観察

南 敦

高等学校の理科の科目、即ち理科Iや生物において、教科書のはじめの方に「原形質流動」という項目がある。原形質流動の観察に適した材料に、シャジクモの全草、オオカナダモの葉、ムラサキツユクサの雄しべの毛などがある。この原形質流動を教える時期は多くの学校で4月下旬より5月中旬までであろう。

ムラサキツユクサは花盛り。オオカナダモも盛んに新葉を出して成長している。ところでシャジクモは夏季水田に多い植物である。したがって、7月中旬頃まで実験を待つか、それとも栽培しておくかである。シャジクモは水槽に土と水を入れ、一度入れて置けば毎年発芽し、生長する。光が余り良く当たっては生長が悪るいし、アオミドロが増えて困る。これは除いても除いても増えるのである。ところで私の部屋（南向き）の前に高さ1mのブロックがある。それに植木鉢が並べてある。そのブロックのすぐ北側にプランターが置いてある。それには土が半分入りその上に水が8cmあってシャジクモが育てられている。プランターのまわりにも植木鉢があってかなり強い日陰となる。このプランターでは毎年4月25日頃からシャジクモが5~10cmになって十分実験に使える。日陰なのでアオミドロは少ない。シャジクモの細胞は大きく、原形質流動はきわめて著しいので生徒の誰もが簡単に見ることが出来る。そして大変感激する。シャジクモ栽培の土は何でもよい。肥料はごくわずかにやったらよいがやらなくてもよい。原形質流動を見るには、スライドガラスの上にシャジクモを置いて水を少しつけ、カバーガラスを軽くおいて、低倍率(10×10)で見ればよい。小中学生でも簡単に見れる。

山口県田布施川にヒシが大群生

南 敦

田布施川は山口県周防南部にあって、八海湾に注ぐかなり大きな川。この川口より約2.5km上流に、本町と庄山の間にかかる橋、即ち、関戸橋(せきどばし)がある。満潮時には関戸橋の下方にある堰(せき)まで汽水がのぼる。この堰の上側には汽水は全くのぼらない。この辺の川幅は約80mである。この堰より上流数100mまでの

間、ヒシは水面の見えないほどびっしり密生し浮かんでいる。所により岸に近い所でオオフサモが浮かんでいる。水中にはオオカナダモが繁殖している。岸辺にごく近く浅い所ではマコモ、クワイなどが生育している。ヒシはいままで池・沼などで度々見ているが、川の中にこれほど多数繁殖したのを見たことがない。川の水が富栄養化したためであろう。なお、その岸部で、水につからない草地にヒメシダやコウヤワラビなどの暖帯上部ないし温帯性のシダ(水生シダ)が群生している。これらはいずれも山口県での南限となる。

京都府のアカウキクサ属

角 野 康 郎

昨年刊行された『日本シダ植物図鑑 5』(東大出版会)には、アカウキクサ属、サンショウモ属、デンジソウ属の水生シダ3属が含まれている。このうち京都府におけるアカウキクサ属に関しては、アカウキクサが京都市深泥池から記録されているだけで(分布図の点はずいぶん離れた所に打ってあるが)、オオアカウキクサの記録はない。

そこで、私の知っているオオアカウキクサの産地を追加しておきたい(標本は、1は京都大学に、2・3は神戸大学教養部にある)。

1. 京都府綴喜郡田辺町、近鉄新田辺駅近くの水田。1980年すぎまで見かけたが、現状は不明。
2. 宮津市栗田。国道178号沿いの水田で採集(1986年)。宮津市近辺では、宮津湾の北側に位置する水田にも本種が生育しているのを本年1月に見た。
3. 舞鶴市神崎。JR丹後神崎駅にいたるまでの道路沿いの水田に点々と分布(1986年採集)。

～水草研究会第10回全国集会～

- 8月6日(土)～7日(日)
- 東京都神代植物公園 植物会館
- 問い合わせ先 〒123 東京都足立区梅田3-26-28
大滝末男方 全国集会準備委員会
TEL 03-886-7049